

雪氷写真館⑥ ベルギー，40 年ぶりに南極観測を再開/
Belgium resumes support for Antarctic fieldwork after 40 years



写真 1 建設中の Princess Elisabeth Station (PES)。基地は氷床から数 m 露出した露岩に高床式で建てられている。卓越風向は写真右から左。露岩の風下には車両倉庫(木材の壁が露出)。後方に見えるのは露岩に沿って設置された風力発電用の風車。



写真 2 PES 基地建設のためのキャンプ村から，Utsteinen Nunatak（左）を望む。キャンプ地の左後方は旅行用キャビンとドラム缶等を搭載した大型機。



写真 3 Pisten Bully に牽引された大型橇 4 台の旅行隊列。最初の 2 つの橇には橇の半分を占める居住用キャビン（灰色）、ドラム缶、スノーモービル等が搭載されている。後ろの 2 つの橇には海上輸送用コンテナが積まれており、この中に観測機材やキャンプ用具などが保管されている。

ベルギー，40 年ぶりに南極観測を再開

南極条約の原加盟国でもあるベルギーが 40 年ぶりに南極観測を再開した。昭和基地の西方約 700 km にひろがる Sør Rondane 山脈の沿岸側に位置する Utsteinen Nunatak の直ぐ近くに Princess Elisabeth Station が建設されている（滞在記中の図 1，地図，を参照）。この基地は優れたエネルギー効率と自然エネルギーの活用が特徴的である。人員は主として航空機で送り込まれるが，物資の多くは船で運ばれ，棚氷に簡易的な埠頭を建設し陸揚げする。夏期間の滞在と通年の無人観測が計画されている。2009 年 2 月の完成の後には，国際的に開かれた体制のもと，競争的資金の獲得を通じて質の高いサイエンスの舞台となることであろう。

松岡健一 (University of Washington, USA)